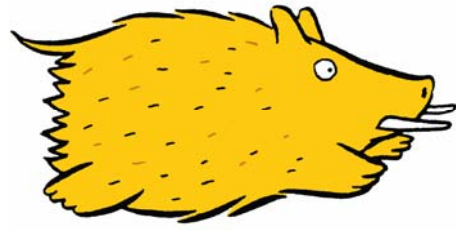




あな！美味しいじゃねいか



マグロ井ほが

by うさお

このところ、なかなかトマソン隊が出かけられないことが多いので、今回はアリモノ※<sup>1</sup>で誤魔化しますね。さて、トマソン隊の行く先々の美味しいものを少おし、ご紹介しましょうね。トマソン隊のことですので、『美味しんぼ』的にはなりませんので濫蓄は無しです。印象に残ったのは三浦のマグロ井です。

この日、うさおは何を思ったのか、急に三浦半島の三崎港に行こうと言い出しました。三崎港のマグロが食いてえ。三崎港はマグロが水揚げされる港として有名です。

でも残念ながらマグロのせり市場は仲買人の免許が無ければ入れませんし、年数回の遠洋延縄漁船の水揚げシーンなん



本牧の町



三浦港



千葉・幕張

て撮れませんから、三崎港のホームページから少し拝借しちゃいましょう。写真左はNHKのニュースでよく見かけるシーンです。こんな風ですよ。

ライ隊員が冒険に向かうと、お食事は外にテーブルのあるお店を探すか、申し訳ないけど車の中でお留守居番かです。彼の明暗はお店に左右されます。天国と地獄ですね。旧スタンダード石油の社員寮に取材した時は、本牧の町にはこんなお店があり、ソフトクリームにありつけました。良かつ



たね。千葉幕張のカルフルのときはピザを貰いました。メタボ犬になる訳です。

もちろん、彼も三崎港に行きましたがその運命や如何に。彼はマグロを食べることが出来たのか？この差別社会に対して彼は何を考えるのか？

ポリティカルな話から入っていったトマソン隊外伝はどんな堅い話になるのか？期待が持てそうである。

さて、やって来ました三浦港。朝、突如うさおは隊員たちを連れて出掛けました。日曜日と在って港は結構な混雑でした。

町営の駐車場にトマソン3号を突っ込み、テクテクテク…。ライ隊員のためにも歩かなきゃね。

兎にも角にも良いお日和でした。

山のように見えるところは城ヶ島。上に突き出ているのは城ヶ島灯台。

景色は素晴らしいのだけれど、何故、タツオトさんのように情感のある写真が撮





「紅緒」店前

れないのか。何故、同じように季節を詠っているのに健ちゃんのような思い入れのある句が出来ないのか？

うさおは自分のことをアナログ人間と思っているが、実はばりばりのデジタル人間で、写真の場合も対象物が納まる最適解で撮影しているのかも。船を主体にするのか、人を主体にするのか、灯台なのか？全てを写そうとする技術者根性なのか？カメラが泣くなあ。



南海神社

それは兎も角、マグロ丼のマップをご紹介します。

三浦港に行く途中にもマグロ料理を食べさせるお店が点在します。もちろん港にはそんなお店がごろごろしているのですが、何処のお店も行列をなしており、ライ隊員とほのぼのお食事をするという計画は潰れてしまいました。

最初に向かったのは、「咲乃屋」さんだったが既に店の前には多くの人だかりが。大丈夫、確か二番手には「紅緒」。



美味しいお店って書いてあったし。あれ、ここもだめだぞ。

なあと、「庄和丸」、「鮮味楽」もあるし楽勝さっ！って、何でこんなに混んでいるんだい。足を棒のようにして歩くトマソン隊。嫌気が全員に伝わります。

ようやく見つけたのは、このお店、「丸一」。実は海鮮物屋さんなのだが、どうやら休みの日には俄か料理店になるらしく、素人ばい兄ちゃんが包丁を振るっていました。

もちろん眉を擡め「新作のマグロ丼を！」\*2とバリトンで注文します。

「すみません。今、本鮪の冊を切ってきますので、お待ちのほどを・・・」

「それまで、鮪の目玉の焼いたのは如何で、人気絶品です！」

お兄ちゃんの言葉を鵜呑みにしてしまいました。確かにそれは料理法によっては美味しいものだったでしょう。新鮮なだけで目玉は少し不気味で美味しくありませんでした。Cacco もそーっと、こちらにお皿を差し戻します。

このとき、ライ隊員はどうしていたか。「丸一」のお店の前で不貞腐れて寝ておりましたので、通り掛る方々から「可愛い～！」って声を掛けられて、やに下がっておりました。

これが食べたかったマグロ丼かあ？



何だか違うような気がする。詐欺にでもあったような気持ちでしたが、お腹は一杯、財布はすっからかんになりました。でも、気を取り直して三浦港の散策に出かけました。





途中、ものすごく綺麗な娘とすれ違いましたが、カメラを向ける暇も無ければ勇気も無く、残念な思いをいたしました。

そんな訳でもないでしょうが、街にはやたらカメラ、三脚を持った写真マニアの方々に溢れ返っていました。(嘘です。家族連れの方のほうが多かったです。)

途中で出会ったこのお店は、江戸時代から続くマグロ船の海鮮問屋の蔵だそうで、店の前に由来の看板が飾ってありました。

「久野屋の蔵」と言うらしいです。

同じく由緒のありそうな酒屋さんがありました。山田屋酒店です。港町は潮の影響を受けるせいか、石造りのお家が多く、ここも裏に蔵を控えていました。

蔵の特集の時に三崎港に来れば、沢山の蔵があったのになあ。

このお店の前はもう海です。景観はもの



すごく恵まれています。

どうせ三崎港に来るんだったら、多少豪勢に「三崎館」でも行って、海鮮丼でも食べりゃよかったかなあ。三崎港って小学生の時に遠足で来たことがあるような。バスで来てお弁当を「三崎





彼方の建物がフィッシャリーナ



フィッシャリーナの前で寛ぐライ

館」で食べた思い出が……。嘘かなあ。

小学生でそんな豪華なこと無いか？

何しろ小学生の時は、全員が戦災孤児みたいな格好していたものね。

ついでに三崎フィッシャリーナ・ウォーフに行ったよ。波止場の中央に細長い建物があり、二階は展示場、一階は一般客用の卸売市場になっており、本マグロの中トロ冊のでっかいのが 2000 円位で、赤身ならば 1200 円位でと格安料金です。

で、ライ隊員はどうなったかと言うと、やっぱりソフトクリームにありつけました。

良かったね！

※1 アリモノ: 業界用語で既に撮り貯めてある画像の使い回し。

※2 「アンティーク」参照のこと。

